

令和6年度 有明小学校「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：25502

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
これまでの 成果	課題
<p>◇協同的な学びを基盤とした小グループ学習に全校がシフトチェンジをすることができている。自ら「分からない」と発信する子が増え、「分からない」ことを共有し、理解が深まったり、主体的に学んだりする姿が多く見られた。</p> <p>◇ヴィゴツキー「発達の最近接領域」の考えに基づいたジャンプの課題を提示し、どの子にも「分からない」状態を生むことで、意欲が持続する学びに繋がった。</p> <p>◇ICTを活用して、調べ学習やまとめ学習に取り組む児童が増えてきた。</p>	<p>◇教え合いの関係ではなく、相手の思考に寄り添った「学び合う姿勢」から児童間での互恵関係を育てる。</p> <p>◇教科本質の学びに沿った問題・課題の設定。</p> <p>◇子どもの思考が深まる足場掛けや繋ぎ方のタイミングの見取り。</p> <p>◇ICTの手段や目的、ねらいをはっきりとさせたうえで効果的な活用方法の明確化。</p> <p>◇全国学力・学習状況調査の結果より、自分なりの考えに根拠をもって表出する力の育成が課題と見られる。…小グループでの学び合いの活用。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題	
<p>◇令和4年度から「一人残らず子どもの学ぶ権利を保障し、その学びの質を高めること」「学びの質と平等の同時追究」から、分からない子が自ら他者に援助を求めることができる力を付け、分かる子はそのつまづきを理解し対応する「ケアの関係」を築くことを目指し校内研究を行ってきた。その出発点として、安心して「聴き合い」ができる学習環境・集団作りを全クラスで実現した。今年度では子どもの問いが生まれた際に、「なぜそれを問いたいのか、なぜそこに着目したのか」という子どもの動機を明らかにすることに着目していく。その動機が明らかにすることで、「ジャンプの課題」を児童の実態に合ったものかつ、教科本質の学びに即したより純度の高いものとしていくことを目指す。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

進んで 聴き合い学び合う子

	AAR サイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自主的な活動の充実
取組	<p>◇研究副主題「協同的学びを中心とした真正の学びによる授業の創造」の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> →協同的学びによってすべての子どもが学ぶ学習環境の整備 →誰一人独りにしない授業の構築と教科研究 →共有の課題とジャンプの課題の精選 →教科の本質に即した「真正の学び」の追究 	<p>◇子どもたちが自校の課題の課題を捉え、自ら「やってみたい」と思う活動を保障した委員会活動の再編</p> <p>◇自分たちの生活を振り返る場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> →1年を4節に分け、各節ごとの目標立てと振り返りを行う。(キャリアパスポート) →体づくり・体力増進に関わり活動の目標立てと振り返りを行い、6年間の積み上げを図る。 <p>◇「子どもたちの心に火が付く瞬間」や「新たな見方を見付け学びが深まる瞬間」に出会うまでを自分の意志で行動し、学びの面白い世界に自発的に入っていくことを大切にされた教師の関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> →教師の子どもの内面世界や教材（モノ）をみる「目」の研鑽。

〈本プログラムの実行に向けて〉

